



浅間の旋風

やる気!元気!!よしあき!!!

発行責任者：山岸喜昭

〒384-0025 長野県小諸市相生町1-3-7 TEL.0267-24-2310 FAX0267-24-2320
http://komorogenkinokai.info E-mail yamagishi_110105@yahoo.co.jp



阿部知事と女性が 小諸の未来を語る会

2月5日開催されました。

県議会議員就任以来、「県とのパイプづくり」「小諸の行政と対話しながら県政との繋がりを構築すること」を課題として参りました。その一貫として2月5日、阿部知事をお招きし、女性団体の方々と意見交流会を開催しました。阿部知事の丁寧な対応が印象的でした。当日は、小諸高校吹奏楽部の演奏披露と小諸商業高校の「スマイル商店街」の活動報告もありました。

1月24日、「改革・新風」所属13名の議員による小諸市内の視察が行われました。国道141号線、小諸市内の四車線化要望地域、相生町の電線地中化、駅前周辺整備の状況、安藤百福記念館、県農業大学校を訪れました。

改革・新風の議員13名が 小諸市を視察



2月定例議会で4度目の一般質問

抜粋・要約

安全、安心な「まち」で暮らすために「セーフコミュニティ」への取り組みを



【山岸】 地域住民、行政警察、消防学校、医療機関など安全・安心に関わる関係者が連携協働しながら、事件・事故の予防活動を行っている「自治体」をWHO(世界保健機関)の関連機関が認証する「セーフコミュニティ」(現在世界で268都市が認証取得)の注目度が高くなっています。このような中で、県内の「セーフコミュニティ」の推進体制、進捗状況は？

【県警本部長】 小諸市と箕輪町が本年中の認証取得を目指している状況。2010年に支援委員会を設置しており、他の市町村の取り組みも推奨したい。他、「長野県自殺対策推進計画」の現状と進捗状況と、「浅間山の融雪型火山泥流対策」については、知事から「国、群馬県など広域的なハザードマップを作成した。今後も情報提供と地域の安心、安全の確保に努める」との答弁を受けました。

県道峰の茶屋小諸線拡幅要望



小諸高校校門より上には歩道、側道には歩道がない。道路沿いは、高い雑木林となっていて冬季の積雪は路面凍結になり大変危険箇所になっています。歩行者は校内の敷地を歩いています。大変交通量が多い道路でもあり、多くの住民や、生徒たちが通勤、通学に通る道路です。生徒や歩行者の安全確保の為に早期の道路改良を望みます。

新たな事業評価を県議会でも考える



「決算審査全面公開、県民視点の仕分け的手法を組み込めるか」会派独自で「事業仕分け」を試行実施した。

県3事業を対象に、仕分人経験者の県民委員を交えての議論。今年度、決算特別委員会副委員長として決算審査を行ってきました。短期間の間に多くの決算審査を行わなくてはなりません。委員会の設置を早め、より深みのある審査を望む事として、決算特別委員会の機能強化の要望を議長に委員会報告として提出した。

柏木三岡区長・丸山耳取区長・柳沢市区長と 佐久建設事務所へ道路改良陳情



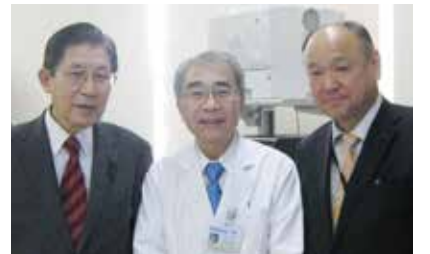
「三岡区・耳取区・市区の通学路改良要望」
「県道耳取三岡停車場諸線改良要望」

県道耳取三岡線は三岡耳取地区の児童が通学する通学路になっており、現状は未改良の狭く、車両の交通量も多く、大変危険な状況にあります。児童や歩行者の安全確保の為に早期に歩道新設を実施するよう要望した。

「県道小諸中込線道路改良要望」

三岡地区の中学生徒が通学路になっている県道小諸中込線は、現状は未改良の狭く、車両の通行量も多く、大変危険な状況であります。生徒や歩行者の安全確保のために早期道路改良の要望をした。

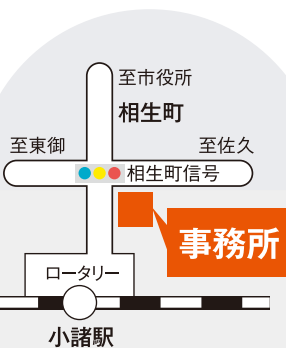
京都大学がんセンター視察 京大医学部副部長 千葉勉 がんセンター長



がん征圧対策先進地視察に京都大学がんセンター、大阪府立成人病センターへ行きました。日本では、がん患者が急速に増加しています。実際現在、二人に一人ががんになり、また三人に一人以上ががんで亡くなっています。このため以前の結核のように、がんは「国民病」とまで言われています。

京大がんセンターは全国のがん患者に、世界で最高水準のがん医療を提供すると共に、未来に向けたがん医療を開発し、専門的に携わる医師、看護師、薬剤師の育成をしている。子宮頸がんのワクチンなど小学生から接種することが必要です。

がん検診は健康に注意している人が受けるが、まだ検診を受けたことのない人がほとんどです。早期定期検診を受けることを推進していきます。



事務所
お気軽に
相生町の事務所に
お立ち寄りください

■小諸市相生町1-3-7
TEL.0267-24-2310
FAX.0267-24-2320



これからも多くの市民の声を県政に届けるようしっかりと努力していきます。開かれた、わかりやすい県政を目指していきます。

元気!やる気!よしあき!を応援してください。

◆環境商工観光委員会とは？
商工業の振興、雇用や労働対策、観光の振興、国際交流の推進、環境の保全や産業廃棄物対策などについて調査や議案などの審査をします。

◆議会運営委員会とは？
議会の運営が円滑に行われるよう日程などを協議します。そして、議会の規律、諸規定などについても話し合います。



第4号 (2012年) 平成24年3月
 発行・編集／改革・新風 長野県庁県議会棟内(026)232-0087
 発行責任者 倉田 竜彦 印刷所 中外印刷KK
 http://www.kaikaku-shinpuu.com

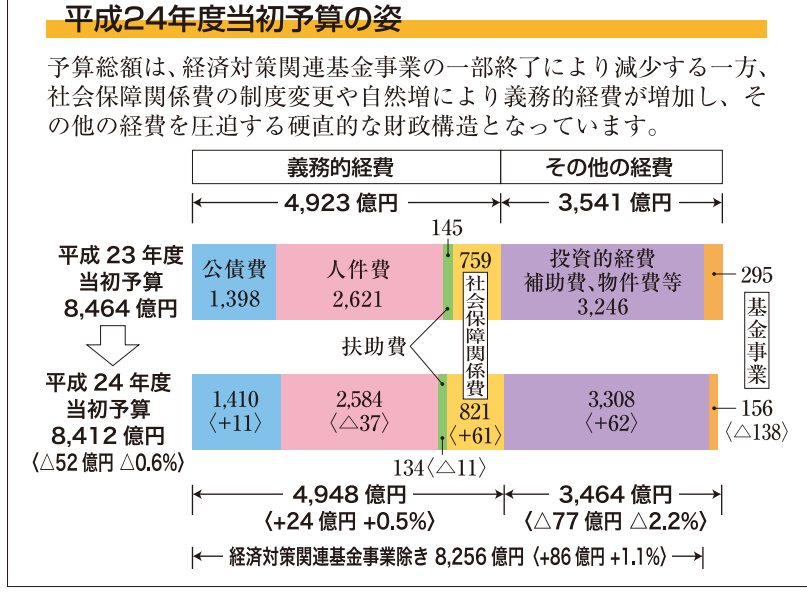
二月定例県議会 寺島副代表が代表質問

一四年度予算を可決

2月17日に開会した定例県議会は、3月13日の本会議で議案の採決を行い、総額8412億円の2012年度一般会計当初予算案、特別職の職員等の給与に関する条例の一部改正する条例案など、県側提出の計87議案を原案通り可決しました。県債発行額を前年度当初予算額の範囲内に抑制し、財政健全化に努めた予算編成となっています。



一般質問に先立ち、各会派の代表質問が行われ、今回、改革・新風は寺島義幸副代表が質問に立ち、知事に対し、然自若とした県政運営に当たるとの要望を述べた。主な知事への質疑・応答は以下の通り。



会派としての事業評価(事業仕分け)試行

去る2月14日、「改革・新風」は独自に県事業を対象にした「事業評価」を長野市で実施しました。当会派に所属する県議が3班に分かれ「信州型事業仕分け」を経験した県民委員らと共に「事業評価人」を務めました。今回対象となったのは次の3事業。各事業に仕分け人から出された意見は次のとおりです。

- ① スノーリゾート信州 構築事業**
 - ・ スキーにこだわらず、個別の事業についてももう少し工夫すべきだ
 - ・ 雪を活用したリゾート地としての質的、量的な大改革が必要
 - ・ アジア大移動の時代という認識に立ち戦略を組み直すべきだ
- ② 高齢者・障害者にやさしい住宅改良促進事業**
 - ・ 県下全ての市町村がこ
- ③ 学力実態調査**
 - ・ 本事業の周知、PRをしっかりとすべき
 - ・ 全校が参加できる方向で努力すべき
 - ・ まだまだ改善すべき余地が多く、大いに期待している
 - ・ 全国であり例のない県独自の事業で担当者の熱意が感じられ効果も上がっていると感ずる

た」と説明されたが阿部カラーは、どのように予算に反映されているのか、A 主な取り組みとして、信州自然エネルギー元年として、太陽光や水力などを活用した自然エネルギーの普及拡大、厳しい環境下での県内産業の下支えとして、展示会・商談会の出展支援強化、公共施設の耐震化や緊急輸送路の重点的整備など、防災、減災対策の強化など、いずれも地域の活力、長野県の強みをさらに発展させていく。

Q 危機管理・防災対策について長野県地域防災計画に「原子力災害対策編」が新設されたが、実行にあたっては、今後どのように市町村と連携協力していくのか。

A 先般、地域防災計画に新設した「原子力災害防災対策編」は、本県が取り組む原子力災害対策の第一歩として基本的な方針を示したもので、今後、計画を具体的に推進していくために、県、市町村の役割に応じた具体的な対応に関するマニュアル等の整備を進めていきたい。しかしながら、国の防災対策の見直しにおいて、方向性がまだ不明確な部分があるのか。

Q 質の高い県民サービスを継続して提供するため、持続可能な財政構造の構築

A 抜本的な見直しによる将来負担の抑制による財政の健全化

Q 産業振興について厳しい経済状況の中、将来を見据え、長野県の活力の源である長野県産業をどのように導いていくのか。

「改革・新風」の県議14名から自己紹介を行い、その後、対話形式で進められ、参加者から多くの地域の課題について質問や要望、意見が出されました。

参加者から「東御市内にはダムが2つある。大地震を受け、ダムの安全性について考えを聞きたい」という質問が出されました。県議側は「県営ダムなので安全性についてはしっかり報告していく」と答えました。その他、消費税、県の産業、県の道路網に対する交通ビジョン、教育、放射能の問題など多岐に渡り質問や要望が出されました。対話集会終了後、参加者からは「とても良い試み。また開いてほしい」との声がありました。対話集会は昨年秋に塩尻市で開き、本年度は東御市で2回目の開催でした。



がん制圧対策先進地視察

日本人の死因の第一位はがんです。「がん対策推進条例(仮称)」制定に向けてがん治療の最先端医療施設である京都大学病院がんセンターを視察してきました。

京都大学病院がんセンターは、がん治療に係るすべての科がそろっています。がん治療は薬の副作用などで皮膚炎になったり、心臓病が併発するケースがあるので、皮膚科や心臓外科など、がん治療に関わる全ての治療に対応できるようになっています。その他看護師、薬剤師、心理士などによるチーム医療も充実しています。「がん対策推進条例(仮称)」制定の参考としていきます。



県政対話集会

「健康・医療」「環境エネルギー」「次世代交通」などの成長産業創出戦略を中心にアジア新興国市場も視野に入れた有望市場を開拓や、人材の確保、といった各戦略を一体的に展開し、次世代産業の集積を図る方針。